

## 学 会 記 事

### I. 第18期日本学術会議会員候補者について（報告）

1. 運営委員会（書面審議）の決定に基づき、日本学術会議会員候補者の伊藤秀三氏、推薦人の林一六氏の届出書を2000年2月10日に日本学術会議会員推薦管理会に提出した。
2. 2000年3月17日付けで日本学術会議会員推薦委員会委員長から、日本学術会議法22条の規定による資格の認定審査の結果、植生学会から推薦した伊藤秀三氏が日本学術会議会員となる資格を有する者であると認定されたとの通知があった。

### II. シンポジウムの報告

2000年2月3日に植生学会と(社)日本環境アセスメント協会の共催でシンポジウムを開いた。会場は弘済会館（東京都千代田区麹町）、参加者は173名。シンポジウムのプログラムは以下のとおり（詳細は「シンポジウムの記録」として植生情報4号に掲載した）。

テーマ：環境影響評価における生態系評価の課題と対策  
開会挨拶：奥富清（学会会長）

#### 基調講演

奥田重俊（横浜国立大学）：生態系における植物群落の評価について

梅原徹（環境設計（株））：絶滅危惧種の保護と生態系  
古林賢恒（東京農工大学）：環境影響評価に際しての二、三の留意点—神奈川県丹沢山地の森林生態系の変遷から—

座長：菊池多賀夫（岐阜大学）、武田義明（神戸大学）

#### パネルディスカッション：

奥田重俊、波田善夫（岡山理科大学）、古林賢恒、梅原徹、西田弘之（新日本気象海洋（株））、下田路子（東和科学（株））、小栗太郎（アジア航測（株））

閉会挨拶：栗本洋二（日本環境アセスメント協会研究部会長）